

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

18

多世代の交流を
目指して
活動の現在

みんなの居場所

「いこうや」実行委員会

まつい

みちよ

たかき

かつよ

左) 松井 通代 右) 高木 克代

町内の「子ども食堂」の有志勉強会をきっかけに立ち上がったボランティア団体です。食事の提供を通して、子どもたちの居場所づくりを行うとともに、乳幼児から子育て世代、現役世代、高齢者までの異年齢世代が共につどい、楽しく語らい、交流し信頼できる人間関係を構築することを目的に活動しています。



きっかけは、子どもの様子から 社会の変化に気がついたこと

活動のきっかけは志免町の地域や学校などで、子どもに関わる活動をしている人たちが、子どもの様子が気になると言い始めたことでした。公民館や学校、保育園などのおはなし会で、様子の気になる子どもが多くなりました。10年以上前のことでしたが、子どもの様子から社会の変化を感じました。

まずは、今の子どもたちの置かれている状況を知ろうと、有志で勉強会を始めました。

春日市のクローバープラザや、福岡市のふくふくプラザの勉強会に参加しましたが、ちょうど「子ども食堂」の活動が目目されていたところで、「志免町の子どもたちが健やかに成長するために私たちができることは何か？」を勉強会を重ねながら話し合い、子どもたちのために「子ども食堂」をしようと決めました。

その当時の子ども食堂には、生活が苦しい人が行くところという風潮があったように思います。それでは子どもが参加しにくいでしょう。そこで、年寄

りも子どもも、多世代の集う居場所にしたほうが子どもたちが来てくれるのではないかと考えました。



子ども食堂ではなく、みんなの居場所「いこうや」の活動を開始

子どもたちには、親だけではない地域の大人を見て、話して、いろんな考え方を聞いて、自然に学んでいく場が必要で、そのためには多世代で話す、集う、交流する機会が大事だと昔から考えていたこともあって、多世代の交流を実現させたいと思ったのです。みんなの居場所という大きな視点でとらえることで、子どもたちだけではなく、地域の大人もみんなが安心して集うことができる場所になるように思いを込めて、あえて子ども食堂ではなく、みんなの居場所「いこうや」実行委員会（以下、いこうや）の活動を始めました。

◆主な活動内容（R4年度）シーメイト2Fにて実施

いこうやデイ おひるごはん 第1土曜11:30～

いこうやナイト よるごはん 第3金曜17:00～

参加費 小学生以上100円 未就学児50円(保険料含)



栄養面や季節の行事を考慮して作られている食事



みんなの居場所が実現！現在はシーメイトで活動中

志免町で活動し始め、場所を探していたころに、東小校区のKさんのご理解を得て、家を活動拠点として無料で借りる事になりました。途中から光熱費をお支払いしましたが、月額2000円の格安で、場所の提供という支援を続けてくださいました。

昔の農家の間取りの家でしたから、実家でご飯を食べるような雰囲気があり、お庭で少し野菜を育てて収穫したり、犬がいたり、居場所として大変魅力的な拠点でした。現在は家主が亡くなられて、借りることが難しくなり、活動場所はシーメイトに移っています。令和4年度は「いこうやデイ」と、「いこうやナイト」の月2回、活動をしています。



さまざまな支援を組み合わせ活動継続中。資源獲得の方法とは

場所以外にも町内の個人の方からお米、馬鈴薯、玉ねぎ、東区のケーキ屋さんからはデザートを提供があります。食品以外の物資をくださる方もいます。グリーンコープからは、必要なものをお願いして取りに行く形で食材の提供があります。ライオンズクラブからは寄付を継続的にいただいています。

活動に必要なお金は、赤い羽根共同募金の助成金に応募して獲得しています。以前集めていた一口500円の賛助会費は、コロナ禍で直接顔を合わせての集金が難しく、現在は集められていません。いこうやでは、会員さんとの繋がりを大事にしたいので、コロナが収束したら、お願いのお手紙を届けながら、賛助会費集めを再開したいと考えています。



コロナ禍での活動の変化と参加者の変化 支援の必要な方へ

2020年のコロナ禍の時は、何かできないかと、知恵を絞りフードパントリー（食材提供）を続けていました。食堂では1食分でも、フードパントリーなら家族の何食分もの食材を持って帰れます。食堂を再開した今でも、私たちが食材を購入し、必要な方に提供しています。

食堂で食べた後に食材も渡せたらよいのですが、活動者側の体力的な問題で、同時開催は難しいです。フードパントリーの食材は、団体の資金から賞味期限の長いものを選んで購入しています。遠慮からか、一度もらった人が何回も来ることはなく、渡す側にも積極性が必要なのかと考えます。支援する側、される側の心の状態まで把握するのは難しいことです。



みんなの居場所のつながりを大切に、価値を高めて広げていく

食事が再開し、参加者もスタッフも食事を囲んでのコミュニケーションを楽しんでいます。いこうやでは、楽しくご飯を食べ、語らい、生活の知恵を自然に身に付け、栄養や食事のマナーなども考えられる居場所になっていくといいなと考えて、活動しています。いこうやのスタッフ同士のつながりも大切に、楽しく活動して、顔なじみがいる安心を感じ、参加する子どもたちの成長を見守る楽しみを生きがいにしています。子どもたちを地域の大人が見守り、関わることで居場所の価値が高まっていくと皆さんに知ってもらいたいので、ぜひ一度参加して欲しいです。参加者同士が定期的にいこうやで会うことで仲良くなり、連絡を取り合い情報を共有する、横のつながりに発展しています。そんなみんなの居場所が町内のあちこちに増えるといいですね。



取材を終えて

「いこうや」には、様々な社会課題に自然にアプローチできる力があります。地域の人たちが、定期的に一緒に過ごす居場所の価値を再認識しました。

